

## TOPIC

## 韓国原子力医学院とのMOUを新たに締結しました



### 核医学・原子力 災害医療の発展

### 日韓共同研究で 先端がん治療の確立と 放射線災害医療強化へ

を期待している」と語りました。

また、昨年6月に国際原子力機関(IAEA)のアンカーセンターとして、本学は日本を代表する大学の一つに位置づけられました。この経験と知見を世界へ発信・共有するうえで、韓国のアンカーセンターであるKIRAMSは極めて重要なパートナーになることが期待されています。

### 日韓国交正常化60周年の節目

さらに、本年は日韓国交正常化60周年の節目の年にあたり、本協定を通じて隣国土の両国が重要かつ強固なパートナーとして結びつきを深め、先端核医学および原子力災害研究分野での日韓共同研究が新たな一歩を踏み出す契機となるでしょう。

福島県立医科大学は、令和7年2月25日(火)に韓国原子力医学院(Korea Institute of Radiological & Medical Sciences、通称KIRAMS)と、先端核医学および原子力災害医療の連携強化を目的としたMOU(覚書)を締結しました。

これまで両機関は緊急被ばく医療分野においてMOUを締結し、相互連携を進めてきました。

今回の新たな締結更新により、「アスタチン-211」を用いた放射性医薬品の研究開発をはじめとする、核医学分野での共同研究が追加されました。

KIRAMSは1963年に設立された韓国唯一の放射線医学総合研究機関であり、放射線医療の中心的かつ指導的な役割を果たしています。

本学がKIRAMSと核医学分野で共同研究を進めることは、各種疾病の早期診断や画期的ながん治療の研究開発を通じ、医療の面から本県の復興を支えるという本学の使命において有意義な取り組みとなります。

### 国際連携の推進と今後の展望

締結式に臨んだKIRAMSのイ・ジンキョン理事長は、「特にアスタチンの研究や臨床応用に関する連携に大きな期待を寄せている。がん治療の分野に革新をもたらす可能性を秘めている」と述べました。

また、竹之下誠一理事長兼学長は、「本協定を通じて、核医学や原子力災害研究の分野で世界的なリーダーシップを発揮すること

## NEWS

### 第10回光翔祭実行委員会からパンダハウスへ売上金を寄附

令和7年2月24日(月)、NPO法人パンダハウスを育てる会に、第10回光翔祭実行委員会のメンバー3名が訪問し、令和5年度光が丘祭・6年度光翔祭の売上金181,667円を寄附しました。

パンダハウスの山本佳子理事長から、施設の運営が寄附金によって支えられていることを聞いた3名は、今後も毎年光翔祭の売上金を

寄附したいと伝えました。また、将来希望する診療科の医師になった際には、福島県の医療に貢献し、パンダハウスの活動も支えていきたいとの思いを語りました。

その後、パンダハウスの室内を見学し、ボランティアの方々による日々の清掃により、築8年ながらも新築同様の清潔感が保たれていることを実感しました。病気の子どもたちや家族

が安心して宿泊できる環境と、施設の維持運営の大変さについての説明も受けました。

今後も光翔祭を通じて、多くの方が病と闘う子どもとその家族を支えるパンダハウスに関心を持ち、支援の輪が広がることを願っています。

第10回光翔祭実行委員会出席者  
松崎宙大さん、樋口大洋さん  
森岡優仁さん(全員医学部4年生)



## 2030(令和12)年度中に開院予定へ 福島県立医科大学附属病院再整備基本計画の策定

福島県立医科大学では、昨年10月に策定した「福島県立医科大学附属病院再整備基本構想」を基に検討を重ね、今般「福島県立医科大学附属病院再整備基本計画」を策定いたしました。

基本計画では、基本構想で定めたコンセプト「環境の変化に適応し進化する大学病院」と「医療提供」「教育・研究」「病院経営」の3つの視点を踏まえ、附属病院の延べ床面積や総病床数、新病院棟の全室個室化や健診機能(疾病予防センター(仮称))の新設等、施設整備の方針を

定めるとともに、新病院棟の建設地を決定しました。

また、外来や病棟等の基本機能や施設条件、必要な諸室をまとめるとともに、医療機器や医療情報システム等の整備計画などを記載しております。

今後は、本計画を踏まえた基本設計の策定を進めるとともに、引き続き、常に、最先端の医療・教育・研究を追究し、県民にその成果を還元し続ける大学病院を目指してまいります。

### 福島県立医科大学附属病院 再整備基本計画【概要版】

令和7年2月



福島県立医科大学附属病院  
再整備基本計画概要版は  
こちらから ▶▶▶



## NEWS01 健康長寿へ、高齢者のための生活機能測定会を開催

令和7年2月28日(金)、保健科学部研究者グループは、アオウゼ主催のもと「高齢者のための生活機能測定会」を福島駅前キャンパスで開催しました。

参加者の身体機能や認知機能を把握し、健康づくりに活かしてもらうことを目的としています。

測定会では、保健科学部の理学療法学科、作業療法学科、臨床検査学科の教員および学生が、

それぞれの専門性を活かして測定を担当しました。

今回は、主に福島市内に住む65歳以上の高齢者80名を対象に実施し、認知機能や血管年齢、嚥下力、歩行能力など、日常生活に必要な10項目以上の測定を行いました。

令和7年度も、南相馬市、福島市、鏡石町、さらにはモンゴルでも開催予定です。今後も、地域住民の皆さまの健康づくりに貢献してまいります。



## NEWS02 看護学部ホームカミングデイを開催

令和7年2月27日(木)、第2回看護学部ホームカミングデイを開催しました。このイベントは、卒業生と在校生がキャリア形成について話し合う場として毎年企画されています。

今年の参加者は、在校生28名、卒業生7名でした。特に3年生にとっては就職活動が本格化する時期であり、卒業生の話聞くことで、自分が働く姿を具体的にイメージしている

様子が伺えました。

交流の場では、笑い声が響く一方で、仕事の状況について真剣に耳を傾ける姿も見られました。在校生からは「今日から勉強します!」「リアルな話が聞けました!」といった前向きな声が聞かれ、明るい表情で帰路につきました。

一方、卒業生は「まだ仕事が残っているから」と名残惜しそうに同級生との会話を切り



上げ、病棟へ戻りました。

その頼もしい後ろ姿は、在校生にとって大きな励みとなったことでしょう。

## NEWS03 生涯にわたるがん教育で、未来の健康を守る

令和7年1月30日(木)、桜の聖母高校にて、1年生を対象に、医学部乳腺外科学講座の立花和之進准教授が、「がんを知り、がんを予防し、がんになっても安心して自分らしく生きよう」をテーマに講義を行いました。

本学では、これまでも県内の大学や専門学校な

どでがん教育の出前講座を実施してきました。

今後は、早い段階から継続的にがん教育を行うことで、がんの原因・予防・治療について正しい知識を学び、県民の皆さまの健康増進につなげていきます。

また、「予防・早期発見」「正しい知識の普及」「社会



全体の意識向上」「医療の発展」を促し、がんに対する理解を深めることを目指してまいります。

### ANNOUNCEMENT

#### 第9回ふくしま県民公開大学を開催します

ふくしま県民公開大学は、本学・広島大学・長崎大学で構成され、放射線災害・医学科学研究の学術基盤の確立を目的に、2016年に設置された「放射線災害・医学研究拠点」の事業の一環としてこれまで開催してきました。

共同研究の成果発表や学生によるディスカッション、食や子育てといった身近なテーマ等様々な内容をおし県民の皆様に情報を発信しています。

今年度も、前年度と同様に、全4回シリーズ

のテレビ番組を現在放送中です。

2月19日、26日、3月5日、12日(水曜)  
20:56~21:00放送(福島放送(KFB))

また、放送後は、大学YouTubeチャンネルにて動画を公開する予定です。みなさま、ぜひご覧ください。